

貧困・苦境児童を支える

FOREST EYE ACTIVITY LETTER

年次報告書

2016



FOREST
Bless to you ...



CONTENTS

- 01. MISSION / VISION / CORE VALUE
- 02. CONTENTS
- 03. 団体概要
- 04. ごあいさつ
- 05. 国内事業
- 13. 海外事業
1st Project
- 17. 会計報告

MISSION

- ・ 現在(いま)を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

VISION

- ・ どんな子どもたちにも平等に夢を
- ・ どんな子どもたちにも未来への希望を
- ・ どんな子どもたちにも無限の可能性を
- ・ どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

CORE VALUE

- ・ 子どもたちの可能性を大切にします
- ・ 人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
- ・ 自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
- ・ 最善の方法を常に探求します

特定非営利活動法人 FOREST
年次報告書
2016
FOREST EYE
ACTIVITY LETTER



- 未来の発明家誕生!?! -

カンボジア孤児院のチェイホームではお父さんによる「生きる為のリアルな課外授業」が日常生活の中で常に行われています。例えば、家具をリメイクしたり、大きなテントを棒とロープだけ組み立てたりとお父さんは家具でも機械でも、遊具でも何でも直してしまいます。そして、それはもちろん子供たちにもきちんと引き継がれています。彼(サンバット)が手にしているのは、日本人からもらったおもちゃの扇風機。これは胴体に紐が着いていて、それを引っ張ると「紐が戻る間だけ扇風機がまわる」というおもちゃだったのですが…気がつくと、なんと携帯のバッテリーをつなげるように改造して、自動でまわり続ける扇風機に進化していました! チェイホームの子供たちの発想とポテンシャルの高さに驚くばかりです。

団体概要



世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest(フォレスト)は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、生まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないよう、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forestは、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。

そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

本部：〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西7丁目12-6

支部：〒8150-042 福岡県福岡市南区若久6-24-8

T E L 011-272-7716

F A X 011-272-7715

E-MAIL info@forest-japan.org

W E B http://forest-japan.org/

設 立 日	2013年12月3日
法 人 設 立 日	2014年4月8日
代 表 理 事	小野塚 舞
理 事	用川 則幸 / 町田 武文 賀来 友麻 / 岡部 憲幸
監 事	植西 圭

ごあいさつ

2016年度も皆さまからのあたたかいご支援を頂きまして本当にありがとうございました。

前年の2015年度はカンボジアの孤児院運営開始に伴い文化や法律、基準等の違いから中々思うように事が進まず苦しくも、大変勉強になった一年となりました。

2016年度は、1stプロジェクトであるカンボジア孤児院の運営支援がスタートし、子供たちの日々の生活風景に触れる事が出来ました。また、カウントダウンパーティー等様々な行事を行い、現地スタッフやパートナーと共に子供たちにとって現在何が必要なのかをより考え、話し合う事の出来た一年となりました。しかし、それと同時に継続した支援を行い続けるということの大変さを改めて痛感する一年にもなりました。

国内事業では、前年に引き続きチャリティイベントの開催や沢山の企業様のご支援を頂戴し、児童養護施設の子どもたちに芸術や社会活動の参加に通じる支援を実施する事が出来ました。また施設も2施設に増やす事ができ、沢山の子どもたちと交流を持つ事の出来た一年となりました。

現在、日本国内でも子供の貧困問題が深刻化しており、子供食堂や学習支援等様々な支援活動が行われています。国内外を問わず、苦境を強いられている子どもたちのために『キッカケ』や『チャンス』『笑顔』の場所を提供することが出来るよう、これからも私たちに出来る事を1つ1つ進めて行きたいと思っております。2017年度は現在の支援活動の継続を第一前提とし、子供たちの教育や運営の見直し等も同時に進めてまいりたいと思っております。2017年も応援をよろしくお願い致します。

国内事業

JAPAN

CORPORATE PUBLICITY FOREST GUMP



CORPORATE

昨年、沢山のご縁を頂き、実現することの出来た支援を今期も継続して実施することが出来るよう、昨年に引き続き赤い羽根共同募金様やモエレ沼芸術花火開催委員会様にご協力ご支援を頂き、今期はより多くの子供たちに支援を行う事が出来ました。子供たちとの触れ合いの中で生まれた前年度の反省点や改善点等も生かしながら取り組む事が出来ました。昨年に引き続きこうして沢山の方のご協力や支えを頂けていることに感謝の気持ちを忘れずに、来期も共同で出来る支援活動の充実化と継続を目指し、進めて参りたいと思います。

PUBLICITY

【HP改装】

カンボジア孤児院の運営支援のスタートや国内事業の支援活動を進めるにあたり、プロジェクトの内容を分かりやすくするため、それぞれプロジェクト毎に専用ページを追加致しました。また、トップページは現在、国内でも深刻化している子供の貧困問題についても、より多くの方に意識してもらえようイメージを追加しています。



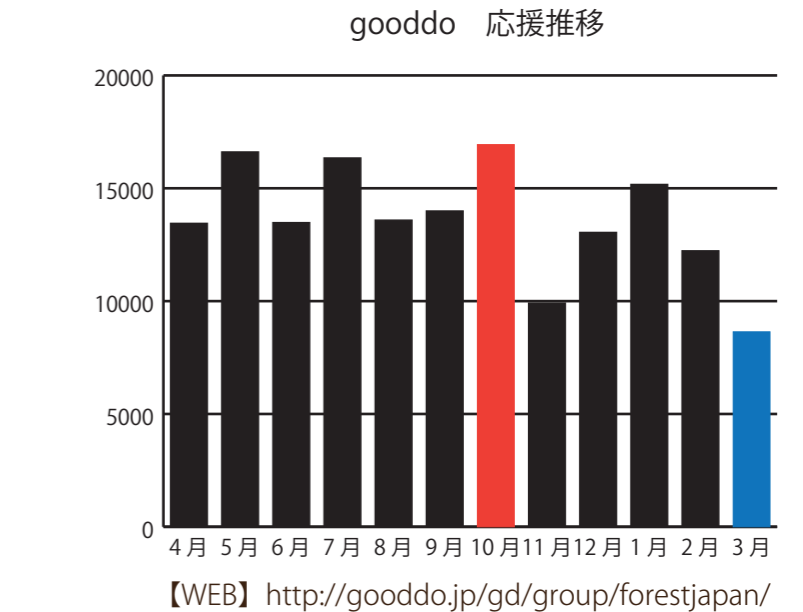
改装したHPのプロジェクト1では、より孤児院や子供達を身近に感じて頂けるよう孤児院の施設マップやチェイホームの取り組み等を掲載致しました。

プロジェクト2では、日本国内における家庭の格差が体験や学力の格差を生み出し、更なる貧困の連鎖に繋がっている現状をお伝えしています。



gooddo

昨年は月日の経過とともにポイントの低迷化が進み日々の習慣の一つとして取り組んでもらうことの難しさを感じておりましたが、今期は日頃応援を頂いているコミュニティの中でSNS等のツールを活用し、「応援のお願い」の呼びかけ方法の見直しや、支援方法についての再説明を行いました。それにより、ポイントも2万ポイント～3万ポイントと安定して支援を頂けるようになり、フォレストにとってとても大きな支援を頂くことが出来ました。今期はこの支援ポイントが継続維持できるよう、フォレストとしても継続的な呼びかけを行い、安定した支援が出来るよう目指していきたいと思ひます。



ONE PIECE FOR PEACE

昨年に引き続き、今期も既にご参加・ご協力頂いている企業様がメインとなり、23,300piece が集まりました。

また、札幌大成さまの ONE PIECE FOR PEACE が印字されたお歳暮ギフトは 70,000piece にもなり、各スーパーに陳列されました。こうした1つ1つが子供たちのための支援につながり、少しでも多くの方に ONE PIECE FOR PEACE の事を知ってもらえるよう進めて参ります。



国内事業

JAPAN

SNS

CHARITY

CHARITY-EVENT



CHARITY-SPORTS

「楽しい・新しい出会い」を支援に繋ぐ

8月9日 フォレストの第三回チャリティゴルフコンペを開催致しました。

昨年に引き続きプロゴルファーの方達にもご参加を頂き、総勢 91 名の方たちがチャリティゴルフコンペに参加して下さいました。

今回はこれまでのチャリティゴルフコンペの反省点や改善点に挙げられた工程の見直し、そしてスタッフの増員を図り、受付から表彰式までの全ての工程におい

て、昨年よりもスタッフ全員が余裕をもって取り組む事が出来ました。

また今年もたくさんの企業様、そしてプロゴルファーの方からご協賛を頂き、お陰様で賞品や参加賞の充実化を図ることができました。参加者のみなさまには賞品の充実だけではなく、チャリティゴルフコンペを通じて新たな縁が広がったことに非常に喜んで頂いたゴルフコンペとなりました。



【開催内容】

開催日：2016年8月9日

参加人数：91名

会場：ハッピーバレーゴルフクラブ

チャリティ金額：141,440円

協賛企業様：

河野晃一郎プロ、塚田陽亮プロ、内藤寛太郎プロ、アンコキーヌ様、入人家様、SKS スポーツ様、えぞや喜多釜戸様、加納 聡嗣様、株式会社木の城たいせつ北海道家具様、株式会社キープグループ様、株式会社こがね様、株式会社コンサドーレ様、株式会社札幌大成様、株式会社ジャパンビレレッジ北海道様、株式会社ハンドメイド様、株式会社プロスパー様、株式会社丸泰オー・エム・アイ様、株式会社恵水産様、クワハラ食糧株式会社様、さくら生花様、橋本靖弘税理士事務所様、モエレ沼芸術花火実行委員会様、MODENA 様、焼肉ダイニング MEGUMI 様、有限会社大道工業様、有限会社フォー・ツリー様、有限会社米田工務店様、有限会社矢車様（五十音順）



社会教育・健全育成の推進Project

モエレ沼芸術花火 2016 で子供たちと感動の共有と心に残る思い出を。

2回目を迎えるこの支援企画内容は「モエレ沼芸術花火の観覧招待」と「世界一たのしいゴミ拾いのボランティア参加」の2つがあります。今回は昨年に引き続き柏葉荘の子供たちと職員の方、そして今年新たにむぎのこの子供たちと保護者の方そして職員の方を含め総勢 45 名を招待することが出来ました。柏葉荘の子供たちは昨年の招待以降、今年も見に行けたら嬉しいなと期待し、招待が決まってからはとても楽しみにしてくれていたようです。むぎの子供たちは初めて間近で見る花火にとっても感動してくれていました。今年も沢山の子供たちの感動と笑顔が生まれた素敵な支援内容となりました。



【贈呈式】

むぎのこ児童発達支援センターさんにてモエレ沼芸術花火鑑賞招待チケットの贈呈式を行いました。招待する中高生が広間に集まって下さり、招待の趣旨や私たちの活動についてお話をさせて頂きました。むぎのこさんからは感謝状と花束、そして子供たちからお礼の歌を頂きとても温かみのある贈呈式となりました。

国内事業

JAPAN

CHARITY-EVENT



子供たちへ社会と繋がる交流の場を増やすために。



昨年同様、「世界一たのしいゴミ拾い」の宝ゴミ探しコース!に参加しました。このコースではゴミを拾いながら落ちていたメダルを探し、集めたメダルの数が多い子に賞品が当たる内容となっています。そして、なんと柏葉荘とむぎのこの子供たちが1位2位という結果になり、子供たち皆で喜びあいました。このゴミ拾いを楽しみにしてくれている子供たちも多くいたため、来年も継続し取り組んで行きたいと思います。



2016年 国内事業総括

今期は新たな支援事業のスタートに取り組む前に、これまで進めて来た支援活動を継続して行えるように重点を置いて参りました。お陰様で沢山の方たちからご協力、ご支援を頂き、前年よりも多くの子供たちへ支援を行う事が可能となりました。また、昨年度のチャリティゴルフコンペや世界一楽しいゴミ拾いで挙げられた反省点を基に今期はスタッフ同士で話し合い、改善案を実行に移す事が出来ました。現在、施設で生活を送る子供たちの多くは日々の生活で努力し成果を上げる事ができたとしても、ご褒美や特別な何かがあるわけではありません。その努力や成果は必ず自身の力になるとしても、誰かに褒められたり頑張ったご褒美があったり、特別な何かが無状態の中で努力をし続けられる子供たちは多くはありません。そのため今回は少しでも子供たちに頑張る事で生まれる喜びを感じてもらいたく、ゴミ拾いに参加してくれた子供たちや父兄、そして職員の方全員にフォレストからお菓子を配りました。これには大人も子供も全員が喜んで頂く事が出来ました。こうした身近な声を感じ取り、小さな事でも喜びやプラスに繋がる支援を来期も継続して進めて参りたいと思います。

海外事業

1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



子どもたちの 教育・健康・成長が守られる
成長支援活動

2014年5月、成長支援活動としてフォレストでカンボジアの孤児院を支援する事が決定し、支えて下さる法人様や個人の皆様のお蔭で、今期チェイホームへの運営支援がスタート致しました。現在、カンボジアにはたくさんの孤児院が存在していますが、中には悪意を持った大人たちが子供たちをダシに支援を募り、私腹を肥やす為だけの孤児院が今も少なからず存在しています。そして、こうした孤児院では「子供に対する暴力」や「人身売買」まで行われていることもあります。また、貧富の差が激しいカンボジアでは、お金持ちは肥え続け、持たざる者は搾取され続けます。その連鎖を抜け出す実質唯一の手段は教育ですが、これもお金が無いと十分に受けられません。そのため、現在私たちが支援しているチェイホームでは、子どもたちが「知識」と「知恵」を身につけ将来自立した大人へと成長できるよう取り組み日々生活を送っています。

孤児院支援「チェイホーム」



【チェイホームマップ】

チェイホーム紹介

チェイホームは、首都プノンペンから車で約1時間半ほど離れた「コンボンスピー」という街にあります。街の住民のほとんどが農業を営み、ヤシ砂糖の産地でもあるこの街は、そのまま「田んぼ」と「ヤシの木」に包まれたのどかな街です。創業者のお母様はすでに亡くなられていますが、その意思を引き継いだ旦那さんと2人の娘さんたちの手によって引き継がれ、現在、チェイホームでは暮らす20人の子どもたちは15名が父さんとプテアヴィーと共にコンボンスピー地区で生活、5名がマナビー夫婦と共にプノンペン地区で生活をしています。

海外事業

1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



孤児院支援「チェイホーム」

本来、就学年齢に達した子供は地域の学校に通いますが、カンボジアは内戦の影響で教育レベルが充分でないことに加え、ほとんどの学校が2部制をとっているため、チェイホームの子供たちは午前中しか授業がありません。そのため午後からは孤児院に帰り、平日は英語が得意なプテアヴィーが英語を、週末はプノンペンから日本語が得意なマナビーが日本語の授業をそれぞれ独自に行ない子供たちの学力の向上に日々精進しています。



FOREST 通信発行

昨年度の課題の中にもありました、支援者様へもっと子供たちを身近に感じてもらえるよう、孤児院の様子を定期的にお伝えする FOREST 通信を発行しました。FOREST 通信では子供たち日々の生活や孤児院を支えてくれている大人たちを紹介しています。

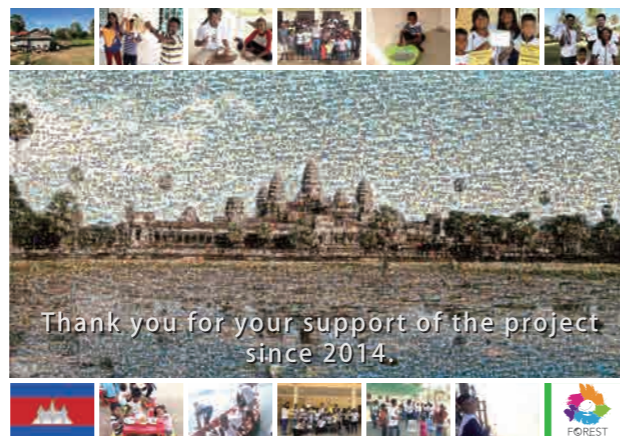
Vol.1【子供たちを見守る大人たち】

Vol.2【続・子供たちを見守る大人たち】

Vol.3【子供たちのチェイホーム】

感謝状・サンキューポスター作成

成長支援活動がスタートし、スタート当初からフォレストを応援して下さっている支援企業様へ感謝の想いを込めて感謝状とサンキューポスターを作成し、子供たちからお礼の絵画と共にお送りいたしました。感謝状やポスターは全てスタッフの手作りとなっており、ポスターは運営支援をスタートするまでに会った人々や風景の写真で作られています。こうした感謝の気持ちを初めて形でお伝えすることができ、フォレストとしてまた一つ進める事の出来た一年となりました。



物品支援

今回私達が支援するカンボジアのチェイホームへ H2 CONSULTING 株式会社の木村様、有限会社マイダ工務店の米田様が訪問して下さいました。子供たちはこの日の為に一生懸命練習した日本語で、緊張しながらの自己紹介でまだまだ練習が必要な感じになってしまいましたが、お二人ともとても温かく見守って下さり、素敵な対面式となりました。また、今回は札幌のイベントを盛り上げてくれる「街おこし project」さんからのおそろいのTシャツのご寄付と、お二人から今回の訪問と合わせてお菓子や生活用品など沢山の品物をご寄付頂きました。こうした日本から支援者様が遊びに来て下さったのは、今回が初めての事で、子供たちにとっても貴重な体験となり、支援者様にとっても子供たちと触れ合ってもらえる素敵な機会となることができました。これからも継続してこういった機会を作り支援の輪を広げて参りたいと思います。

2016年 海外事業総括

これまで思うように進まない事が多数ある中でも一步一步進めて来た孤児院の運営支援がようやくスタートし、今回は子供たちの身長や体重、学歴などの情報共有から食費や衣服など生活全般に関わる収支の見直しに重点を置き進めて参りました。そして昨年の反省点でもある、支援者の皆様への情報発信の少なさを改善するため、今期はフォレスト通信等で現状をお知らせし改善を図って参りましたが、まだまだスタッフの少なさから中々定期的な情報の発信ができていないため、今後、支援の輪を広げていくためにはスタッフや役割分担も含め、情報発信の回数にも重きを置き改善していく必要があると感じました。また、今期支援者様と子供たちの繋がりを考える中で最大の収穫となったのは、お互いをより身近に感じてもらうことが出来た支援者様の現地訪問が挙げられます。今回を機に支援者様や支援に興味のある方が子供たちと触れ合うことで新たな絆や支援の輪が生まれ、広がるよう進めて参りたいと思います。



FOREST

Bless to you ...